

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記③

国立市立国立第七小学校

平成27年6月26日 NO.36 (236)



花ちゃん 「あ！カブトムシだ。」

オー君 「お！カブトムシなら花ちゃんも知^しっているんだね。」

花ちゃん 「もちろんですよ。いままでは植^{しょくぶつ}物の物知^{ものし}り花ちゃんでしたけど、これからは、
昆^{こんちゅう}虫物知^{ものし}り花ちゃん目^め指^さすんですからね。」

モンタ博士 「ほほー。それはいいことだね。大^{だい}賛^{さん}成^{せい}だ。いろいろなことに興^{きょう}味^み・関^{かん}心^{しん}をも
つことはとてもステキなことだね。上^{うえ}の写^{しゃ}真^{しん}は3年生のFくんがつかまえた
カブトムシだよ。」

花ちゃん 「右^{みぎ}の写^{しゃ}真^{しん}にはたくさんのカブトムシがいますね。」

モンタ博士 「これは、3年生のKさん姉妹^{しまい}が、一^{ひと}橋^{つば}大^だ学^{がく}におうちの人と夜7時^{よる}ころに行^いっ
てつかまえたものなんだそうだ。」

オー君 「たくさんいるようですね。全^{ぜん}部^ぶで何^{なん}匹^{びき}いるのですか。」

モンタ博士 「10匹もいるんだよ。一^{ひと}橋^{つば}大^だ学^{がく}にはコナラやクヌギの木^きがたくさんあって、
い^{そう}い^き雑^{さつ}木^{ぼく}林^{りん}があるから、い^いっ^ぱい^いるんだね。ところで、オー君！カブトム
シについて知^しっていることをお^{はな}話^ししてごらん。」

オー君 「カブトムシというのは、あ^{あし}が^{ほん}6本^{ぽん}で、こ^{こう}う^{ちゅう}虫^{むし}という虫^{むし}の仲^{なか}間^まで、クワガタやコ
ガネムシ、カミキリムシ、タマムシの仲^{なか}間^まなんだ。全^{ぜん}体^{たい}が箱^{はこ}のよう^{かたち}な形^{かたち}で、
ま^{まえ}え^{はね}の羽^{はね}はかたくて開^{ひら}くだけ。後^{うし}ろ^{はね}の羽^{はね}はまくみたくて、はばたいて飛^とぶんだ。

あし
足に『つめ』があるのも特徴だね。」

モンタ博士「ほほー。さすがはオー君だね。今、カブトムシの足には『つめ』があると言
ったけど、今日はいろいろな『虫の足』についてよく見て、虫のくらしにつ
いて考えてみようよ。」

花ちゃん「なんだか、おもしろく楽しくなってきましたね。」

モンタ博士「カブトムシの足をもう一度よく見てごらん。何か気がついたことないかな。」

オー君「ギザギザがあるし、先のほうは『つめ』つまり、フックになっているね。」

花ちゃん「それで、チクチクいたかったりするんですね。」

モンタ博士「そのとおり。いろいろと自分でつかまえて、手でさわるといろいろわかるね。

ところで、どうしてギザギザや『つめ』があるんだろうね。」

オー君「そうか！カブトムシは木に登るから、『つめ』がなかったら引っかからないね。」

モンタ博士「そのとおりだね。同じようにチョウやバッタ、カマキリの足について考えて
ごらん。」

花ちゃん「チョウは体も軽しいし、花にとまるだけだから、弱々しい足でもいいのね。」

オー君「バッタの足が曲がって三角になっているのは、遠くへ飛ぶためなんだ。」

モンタ博士「みんなが高くてジャンプするために、ひざを深く曲げるのと同じさ。」

オー君「カマキリの足は、いろいろなえものをつかまえるために、カマのようになっ
ているんですね。」

モンタ博士「足をよく見ると、敵からの逃げ方やえさのつかみ方、すみかなど生活の様
子がよくわかるということだね。つまり、いろいろな虫の暮らしを知ろうと
思えば、その虫の体にヒントがあるということだね。あれあれ、1年生のM
くんがバッタを、1年生のHさんがカマキリを、3年生のMさんがカタツ
ムリを、4年生のSくんがアオダイショウをつかまえて持ってきてくれたか
ら、これから、みんなでよく観察しよう。」

